

4月の予定



- 7日 ビデオ&詩篇朗読&書き取り
4月生まれの人に祝福のお祈り
- 14日 きっず・らんど
- 21日 ビデオ&詩篇朗読&書き取り
- 28日 お話&詩篇朗読&書き取り

チャレンジ! 暗誦聖句

愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちを歩むことです。

ヨハネ第二の手紙 1章6節

教科書にできるクリスチャン偉人伝 『マザー・テレサ』

マザー・テレサは、1910年8月26日、マケドニアのスコピエという町に生まれました。洗礼名はアグネス・ゴンジャです。市会議員の父ニコラは、アグネスが9歳の時、亡くなりましたが、敬虔なクリスチャンの母ドラナに愛され、祈られつつ成長しました。ドラナは、夫を失った逆境の中でも、貧しい人々を家族と呼び、奉仕活動をしていました。後にマザーは、「神を愛すること、隣人を愛することを母から教えられました」と語っています。

幼いころから修道女になって、神様のために働きたい、と願っていたアグネスは、18歳の時、ロレット聖母修道会に入り、3ヶ月後、インドに渡りました。そしてダーズリンにある修道院で、修練生として学びはじめたのです。21歳で、修練期間を終え、正式に修道女として『テレサ』という名前を与えられ、カルカッタ郊外の聖マリア女学校へ、教師として派遣されました。恵まれた家庭の子女の集う学校で、テレサは平和な日々を過ごしますが、学校の門の外では数多くの難民が飢え苦しむ悲惨な状況があって、自分の為すべきことは何かと葛藤を覚えています。

1946年9月10日、ダーズリンへ向かう列車の中で、「神は私に貧しい人々を愛することを求めている」と確信を得て、1948年12月、修道院を出てカルカッタのスラムで活動を開始します。貧困をなくすには、まず教育から、というのが、テレサの強い信念でした。広場が教室、地面が黒板の青空教室で、スラムの子供たちに教え始めたテレサのもとへ、かつての教え子たちが共に働こうとやってきました。またインド人の中からも協力者が現れ、活動拠点となる部屋を提供してくれました。

テレサたちの活動は、食糧の無料配布や、病人や孤児の世話など、急速に広がっていき、1950年、ローマ法王から正式に認められ、「神の愛の宣教者会」と名付けられました。この会の目的は、貧しい人の中でも、最も貧しい人への心からの献身です。シスターの一日は朝の祈りから始まります。彼女たちが献身的に貧しい人のため働く力は、この祈りから生まれます。慈善活動をしているのではなく、神の教えに従って、神に自分を捧げキリストに仕えるように、貧しい人々に仕えているのです。

路傍で独り死を迎えている人に、あなたは望まれて生まれた大切な人だと伝え人間らしい最期を迎えるための場所『死を待つ人の家』や孤児のための家やハンセン病患者のための施設など、マザーは多くの人々の協力を得ながら、次々とつくっていきました。そして1997年9月、心臓発作で倒れ、世界中の多くの人々に祈られつつ、神のもとへ召されたのです。

るばるのこ



加古川福音キリスト教会日曜学校部 発行
牧師 楠橋 清隆・喜代子
TEL 079-425-1406

編集後記

『何か物事を始めるときは真心をこめて、行ないなさい。でなければ、何一つ始めては行けません。』

修道女になるため、家を出る時マザーテレサの母ドラナは、娘にこの言葉を送ったそうです。真心、という言葉が、私は好きです。体面を取り繕うためではなく、誠心誠意、力を尽くして、事を為す、そんな生き方をしたいと思えます。

歴史に残るような大きなことではありませんが、例えば、洗濯や掃除や食事の支度、そんな些細な日常の主婦業を、『真心をこめて』したいと思うのです。

どんな単純な作業の中にも、私だけが出来る『+α』があると思います。私の心を込める時、私の色がそこに表れてきます。生かされている時間の経過の中で、いかに鮮やかに自分の色を醸し出せるだろうか……それは、神様からの宿題なのだ、私は思えるのです。神様は一人一人に、それぞれ力を与えておられます。その力を心を込めて用いていきたいです。

新しい年度がスタートする四月。この一年の歩みを、後で振り返った時、カラフルな自分色が、そこそこにちりばめられていたら嬉しいですね。